

新潟理定

第 20 号

発行所
県支部事務局

支部長御挨拶

新潟支部長
田村 仁



秋も酣となり、皆様には益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

また本年は、母校が創立125周年の佳節を迎えたことを共に慶びたいと思います。

6月14日、東京帝国ホテルで開催された記念式典・祝賀会には、若井幹事と一緒に参加させていただきましたが、誠に盛大なものでありました。経済産業大臣を始めとする政・財界の方々や私立大学協会や学術会議など各界から、母校の建学精神と歴史への深い賞賛と21世紀を切り開くあらたな科学・技術の創造に対する切実な期待が寄せられていました。グローバル化した高度技術・情報化社会の新たな展開において、母校が果たすべき役割と責任の重大さを自覚し、その理念を社会に宣言したものが、当日の各紙朝刊を飾った東京理科大学の全面広告であります。「科学は良心に向かう」というキャッチコピーを通して、私たち人間に委ねられた特権と責任とを深く噛みしめ「科学」を「良心」へと向かわせようとする

する東京理科大学125年目の決意を示したものであります。あらためて母校の発展と決意の成就を願わずにはおられません。

さて、18年度の新潟支部総会は、8月26日総勢28名の参加を得て高田ターミナルホテルで開催されました。塚本理事長様からはパワーポイントによる記念行事のハイライトや母校の最新情報と今後の構想を、理窓会の田村常任幹事様からは、理窓会の大改革を目指した五ヶ年計画と周年募金への協力、ホームカミングデーのことなどを興味深く語っていただきました。企業関係者の参加や塚本・田村両氏の参加も相俟って祝賀会も大いに盛り上がり、今後を期すことができました。2学期開始直前の多忙中、御尽力下さった上越地区の方々にお礼を申し上げます。

9月30日に開催された恒例の研修会についてお伝えします。文化祭や各種行事と重なって参加者は7名にとどまりましたが、「学校の活性化・特色作りに向けて何が大切か」をテーマとする意義深い研修会でありました。学校の中核となっている40歳前後の先生方にこそ是非とも参加していただきたいと願っております。

新潟支部の同窓の輪が、若手に、企業に、義務関係にと拡がっていくこと、また周年募金に一人でも多くの御協力が得られることを願って、挨拶いたします。

◇新潟支部総会◇

平成18年8月26日(土)理窓会新潟支部総会が上越地区のお骨折りにより高田ターミナルホテルで開催されました。総会での議事の内容につきまして、後述の通り承認されましたことを



報告いたします。

今回は理窓会本部より理事長の塚本恒世様、常任幹事の田村和應様にお出でいただき、講話と報告を賜りました。お二人には二部の会まで御出席いただき、心より感謝申し上げます。

来年度は下越地区の当番となっておりますが、何卒よろしくお願いいたします。

◇役員改選◇

支部長 田村 仁
副支部長 新保 隆

村山 宥一
岩根 卓司
木南 誠

室岡 政幸
森 久

中野 晋

地区幹事 平成18年度版名簿に記載
県幹事 平成18年度版名簿に記載
顧問 平成18年度版名簿に記載

(今年度、次の方に新規委嘱)

上野 茂男

◇平成17年度事業報告◇

・支部役員会開催
7月9日 新潟会館

・支部総会開催
8月27日 パストラル長岡

・会員名簿発行(8月版)
8月27日 A4 24頁 40部

・研修会開催
10月1日 新潟会館

- ・会報「新潟理窓」発行
1月28日 B5 4頁600部
- ・会員名簿発行(3月版)
3月26日 A4 24頁80部

◇平成18年度事業計画◇

- ・支部役員会開催
7月9日 新潟会館
- ・支部総会開催
8月26日 高田ターミナルホテル
- ・会員名簿発行(8月版)
8月26日 A4 24頁50部
- ・研修会開催
9月30日 新潟会館
- ・会報「新潟理窓」発行
10月下旬 B5 6頁600部
- ・会員名簿発行(12月版)
12月中旬 A4 24頁100部

◇平成17年度会計収支決算◇

繰越金	135,482円
会費	149,840円
臨時徴収	13,000円
雑収入	7,425円
合計	305,747円
○支出の部	
支部総会補助	30,000円
会議費	19,820円
名簿・会報	11,382円
送料	69,560円
事務用品	2,169円
資料代	6,000円

合計 138,931円

◇平成18年度会計予算◇

繰越金	166,816円
会費	100,000円
臨時徴収	5,000円
雑収入	8,184円
合計	280,000円
○支出の部	
支部総会補助	30,000円
会議費	20,000円
支部還元金	4,000円
名簿・会報	10,000円
送料	72,500円
事務用品	10,000円
資料代	6,000円
予備費	127,500円
合計	280,000円

御 挨拶

御 挨拶
副支部長
新保 隆



数回あるように思う。

その一つは、私は帰巣本能が強いのか、それとも私がそれなりの年齢になった証なのか、出張等で上京して時間

に余裕ができたとき、飯田橋駅に降り立つことがある。何か目的があつてのことではなく、ただ単に神楽坂を上り下りし、理科大の敷地内を散策するだけのこと。あの一带は昔に比べて建物が新しくなり町並みも今風になって景色が変わっても、建物の配置を規定する道の路線はあまり変わっていない。そのお蔭で、私の足は記憶を頼りに細い路地にも迷うことなく目的地を目指して町並みを巡り、キャンパスを散策させてくれる。高層ビルとなった大学一号館の前では、旧一号館の屋上にあつた落第神社を、またポートの浮かぶ外堀の水の定常波の周期を測定していた先生がいたことを思い出す。学生のフアッション、風体は変わっても行きかう学生達の動きは昔と変わらない。今昔の変化と不易を楽しみながら彼らに混じって歩み、彼らの後姿に四十年前高校の学生服を着て田舎から東京に出てきた貧乏学生の自分を重ね合わせてノスタルジアに浸る。

は解消した。理大が発展し続けている姿を実感した。
七月末に大学の新潟地区保護者会に寄せていただいたときや今年の支部総会で、「理窓会五ヶ年計画」―伝統の再認識と新しい価値の創造―をお聞きした。東京大学でも学部ごとの同窓組織を全学一体化する方向と聞く。同窓会組織の在り様が大学の評価につながることも聞く。新しい価値を創造する母校であることを願うとともに理窓会が理学を志す若者の学び舎を支える母体となつて発展することを願うものです。
先日、上越での支部総会に出席した今春卒業の会員が校長室を訪問された。新潟市内の企業にお勤めで、仕事の悩みや戸惑いなどいろいろ話された。
同窓会会員の間には、業種、職種、年齢を超え、また大学で学ぶ環境が変化しても、同じ大学に学んだ者が共有できる何かがあるように思う。世界から理大が評価され、新潟理窓会が発展することを願います。

就任に当たって

副支部長
岩根 卓司



私が、理窓会支部長の副支部長になるとは、夢にも思っ

ていませんでした。今、思い起こせば、昨年の夏休みだったと思いますが、「義務教育の先生方の理窓会への意識を高めてほしい」と前任校(出雲崎中)の校長室に訪ねてきた雅楽隆伸前支部長の言葉が始まりでした。私が佐渡島で教頭として勤務していた時、若井静男元支部長からも同じ話をいただいていた。しかし、その当時は、大先輩の校長方が何人かいた中で、私みたいなものがしやしやり出ると言うわけにはいかず、断りました。しかし、雅楽先生の言葉に押され、誰かが引き受けなければという気持ちから、副支部長という大役を引き受けました。なかなか義務の先生方をまとめる自体、難しいこともあるのは事実ですが、引き受けた以上、重責を全うしていきたいと感じております。私が、現在考えていることの一つは、義務教育に携わっている理窓会員の動向を調べることであります。もう一つは、理窓会員の絆をどう築いていくかです。

まず、一つ目の会員の動向ですが、昨年度、名簿作成に当たっては、山田亮一校長(当時与板中)と渡辺千一校長(当時下田中)の協力をいただきました。県支部の会員名簿はありましたが、それ以外の会員名簿を調べるためです。あいまいな会員は、県教職員名簿で一人一人を確認しました。その結果、義務教育に携わっている会員が八十九名いることが分かりました。その内、校

長職をしている人が十三名、教頭職が二十三名いることも分かりました。今まで会合で顔を合わせた人で、「あの人も理窓会員だったのか」と再認識され、親しく話せる機会もできました。まだまだ、会員名簿には落ちがあると思います。年度ごとに勤務先も違ってくる。これからも、より正確な名簿作りに励んでいきたいと考えています。二つ目は、いかにして会員の絆を高めていくかであります。なかなか義務教育の場合、先ほども述べましたがまとめる難しさもあります。私のできることから、様々な会合で折にふれ働きかけ、会員の和を高めていきたいと考えています。そして、いざれば総会時に義務の先生方が、多く参加できるようにしていきたいと思っています。どの理窓会員も、母校のことは忘れなれないと思います。また、同窓会員の絆を大切にしたいと考えていると思います。そのような気持ちを少しでも実現できるように、微力ではありますが努力して参りたいと考えています。

御 挨拶



副支部長
中野 晋

この度、理窓会新潟支部副支部長を仰せつかること

になりました県立新潟翠江高等学校の中野です。田村支部長のご指導をいただきながら、微力ではありますが、理窓会発展にお手伝いできればと思っております。宜しくお願いたします。私の勤めております新潟翠江高校は、閉校となった黒崎高校校舎を使用した昼間(午前部と午後部の二部制)定時制課程と通信制課程をもつ学校です。生徒は、それぞれ約260人と1200人在籍し、様々な課題を抱えつつ高校で学習することを望んで通学しています。広域から生徒たちは一生懸命通い、一人ひとりが主役として活動しています。また、先生方は生徒たちをよく理解し支え、熱心に指導しておられます。生徒たちのために何ができるかという共通した思いで先生方がまとまっている職場と感じています。

さて、私事ではありますが、いくつになっても、体と相談ではありますが、目標に向かってあれこれ考え、できないながらも行動する趣味を持ち続けたいと感じています。若い頃の話になりますが、大学に入ってから始めたスキー、最初は訳もわからず無駄な力を入れ滑っていました。しかし、三年目になると、どのポジションに加重するか、雪からの抗力をいかにスキーの推進力に変えていくかなどいろいろ考えていたものでした。(言葉にすると、かなりの腕前に見えますが大したことはありません)。次々に技

の壁が現れるものの、毎年変身する自分を感じた幸せな時間でした。今では年一回程度、天候が悪いと温泉に変更と大分様子は変わり反省しています。十数年前より、ゆっくりと半日かけて外を歩き、あるがままのポールを技術と集中力で目標の所に運ぶスポーツに、暇を見つけて、挑戦しています。未だに集中できず、思うようにならないことが多々あります。まだまだ精神修行が足りないことがわかります。これからも、歳相応に、その時々を楽しみたいと思っているこのごろです。

文字』で
伝わるもの



H10基礎工・生物工
高野 雅子

高校三年生の担任をしていた二年前、何かの役に立つだろうとクラスの生徒に携帯のアドレスを教えた。初めはメールをくれる子はいなかったが、十一月頃からメールが増えてきた。内容はほとんどが入試に関する悩みや大学の可否報告などだったので、「学校で会った時に口で言えばいいのに。」と面倒になることもあった。しかし、卒業式後にもらったメールは、「ありがとうございました。」のことは今までもちがいが嬉しさと照れくささを感じた。その後も、近況報告や他愛もないことなど色々なメールが送られて来た。転動して仕事に慣れず落ち込んでいた

私は、どれほど元気づけられたことが、大学の授業・実習・部活・アルバイト・etc. やらなければいけないこととが山ほどあって、パニックになったという生徒は、力を抜くことを覚えたという。これには、私も「なるほど。見習わねば。」と感心した。

六月のある日、時々メールをくれる生徒から手紙が届いた。元気にやっているのだろう。特に自分のことは書かれていなかったが、暑さに弱い私を心配して夏バテの予防法が記してあり、「元気にお過ごし下さい。」と結んであった。生徒に心配されて恥ずかしい反面、他人を気遣える人間に成長したことをとても嬉しく思った。「これも見習わねば。」

クラスの誰かからまたメールが来るのでは。あれから一度もアドレスを変更していない。教え子からの手紙がこんなにも嬉しいものとは…。私も、恩師に手紙を書いてみようかな、という気持ちになった。

在学中の思い出

S61理工・数

平田 弘志



私が理科大にいたのは、二十五、六年前にもなる。しかし、その頃の思い出は今でも鮮明に心に焼きついている。山のクラブであるワンダーフォーゲル部に入り、四年間、五年間おおいに楽しませてもらった。四季を通じ活動し

たが、特に三年生の二月、北アルプス（北の又岳、薬師岳、三俣蓮華岳、槍ヶ岳）へのスキー登山は素晴らしかった。稜線まで上がるのは大変だったが、何といっても薬師岳での、氷雪による風紋（シユカブラ）が幻想的だった。そのシユカブラの上をスキーで滑ったときは正に天国の世界の様だった。この情景が本当に稀であるが、夢に出てくる。

山行のための費用がかかり、常に貧乏暮らしだった。教科書を買うというそをついては、母親からお金を送金してもらった。スーパでパンの耳が無料でよくもらいに行った。ごはんをアパートからタツパの中に入れ、学食に行つて、コロツケ一個くださいとよく学食のおばちゃんにお願いした。貧乏であったが、毎日楽しく、また充実していた。クラブの友達、寮の友達、数学科の友達、よく遊んだ。あまりに楽しく大学に一年長く在籍もした。大学から便りが来るたびに大学時代を思い出し、もう一度あの頃に戻りたいという衝動に駆られています。

精神的 U ターン

H13理・物

山本 岳



U ターン就職することに決めた。しかし、様々な施設、催し物があり、文化が集中する都会を離れたくないという気持ちがあった。東京と新潟の家賃

の差額で、月に1回くらい東京に遊びに行けるんだから良いじゃないかと自分に言い聞かせながら戻ってきた。

しかし実際は、月に1回どころか3ヶ月に1回すら東京に行っていない。日帰りで行つて来る程度の時間すら作れないということではない。

にも関わらずほとんど東京に行かないのは、知らなかった新潟の魅力を感じ始めたため・・・と書くと、「新潟の自然に」という方向に筆が滑りそうになるが、そうではなく、こちらの催事や各種施設も面白いという嬉しい誤算があったからだ。

もちろん施設の規模や催事の期間、頻度などを言い出したらきりがなが、移動時間や交通費との対費用効果を考えるとこつちの方がいいかもな。とも思いながらいくつかの地元の施設を回り、興味深いものを見聞きした。

一度東京に出ていたからこそ、地元の面白さに気がつくようになったのかもしれない。何にせよ、東京はもちろん、県内にだってまだまだ回りたい所が山ほどあることだけは確かだ。

ある入学式の風景

S18理化9

富井 圭介

小学校の入学式を想い浮かべてください。ステージの背面には、国旗と校旗が飾ってあり、ステージ前にはプラントナーに花が美しく咲いている。保護

者席には美しく着飾ったお母さん達が少し緊張気味に並んでいる。夫婦でお出での方もいるようだ。小学校の入学式も今の世の中の豊かさを感じさせる。式は進行して校長先生が二クラスの新入生の担任の先生を紹介された。次に担任の先生が新入生の前に立って自己紹介をした。担任の先生は男の先生と女の先生であった。お二人は自分の名前を言い、

「宜敷お願いします」とお二人とも同じ言葉であった。わたくしは一瞬耳を疑った。先生がこれから指導する生徒に対して「宜敷お願いします」はないのではないかと。せめて一緒に元気で勉強しましょう位は言えなかつたのであろうか、と思つた。

世の中の人は皆教育評論家であるといわれている。そんな中で学校の先生は追いつめられて、弱くなったのであろうか。児童達のために、敢えて私は気概を持った強い先生を求めます。

◇事務局からの連絡◇

年会費は1000円です。同封の振込用紙にてお願いします。

名簿は支部会費納入確認後、該当者に送付いたします。

同窓の情報をお寄せください。

事務局連絡先

新潟市新金沢町29-14 上杉 肇

電話 & fax 0250(22)0312

電話 & fax 0250(22)0312

